医学生と研修医の声から見えた内科の魅力と進路選択の課題

全国 14 大学・29 研修病院の 1,101 名を対象にした意識調査

概要

内科では、将来の医療を担う若い人材の確保が課題となっています。高齢化で医療ニーズが複雑になる一方、働き方改革や研修・専門医制度の変化により、医師の働き方や学ぶ仕組みも変わっています。こうした中、内科を進路に選ぶ若者を増やし、学び、働き続けられるよう支えることは、日本の医療を維持するうえでも重要です。しかし、医学生や研修医が内科の何に魅力を感じ、何が進路選択やキャリア形成の障壁になりうるのかは十分に把握されておらず、当事者の声に基づいた支援を考える必要がありました。

そこで日本内科学会若手委員会は、全国 14 大学・29 研修病院の医学生と初期臨床研修医 1,101 名を対象に、内科への認識と進路選択に関する調査を実施しました。回答者の約 7 割が内科に関心を示し、内科のやりがい、先進的な研究・治療、多様なキャリアが肯定的に評価されました。内科を進路の候補とする人には、診断にたどり着く過程への興味、患者さんの話を聴き診察すること、内科の専門分野への関心が共通する主な理由として挙げられました。

研修医では、相談しやすい指導医の存在や教育・研修の充実、職場の雰囲気も内科を候補とする理由として重視されました。一方、内科を候補としない研修医からは、専門医制度の魅力、仕事と私生活の区切り、仕事量に見合う収入などへの懸念が挙げられました。進路全般を考える際には、仕事のやりがいと専門分野への興味が最も多く重視され、学問や仕事の魅力と、それを支える環境の両方が大切であることが示唆されました。

本調査は、内科の魅力とキャリア形成の障壁になりうる要素を若い世代の声から捉え、日本内科学会が大学・病院とともに支援を考えるための取り組みです。内科を志す人が多様な将来像を描き、学び、働き続けられる環境を整えることで、日本の内科医療の将来を支えることを目指しています。

本研究成果は、2026 年 11 月 19 日に本内科学会の英文誌「*Internal Medicine*」にオンライン掲載されました。

1. 背景

内科は、急な体調不良から糖尿病や心臓病などの慢性疾患まで幅広く対応し、地域の医療を支える診療分野です。高齢化により複数の病気をもつ人への診療が求められ、地域や診療科による医師の偏在への対応も課題となっています。同時に、2024 年 4 月に始まった医師の働き方改革や、新しい専門医制度の導入によって、勤務・教育の環境や、専門医になるための研修・評価の仕組みも変化しています。こうした変化の中で、内科でも次世代の担い手となる若い人材の獲得・育成が課題となっています。教育現場には、内科を選ぶ若者が減るのではないかという懸念があり、若い世代がどのような研修や働き方を求め、どこに困難を

感じるのかを捉えた支援が必要です。
日本内科学会若手委員会(委員長:大野聡子、副委員長:菅原有佳・松本俊彦・村上隆亮)は、若手の視点を学会活動に反映させるため、2023 年に設置されました。本研究では、医学生や研修医自身の声から内科の魅力と課題を捉え、若い世代がどのような支援を必要としているのかを明らかにすることを目指しました。医師の育成を担う学会、大学、病院が、将来の医療を支える環境を考えるための基礎資料となります。

2. 研究手法と成果

2025 年 1 月 10 日から 7 月 7 日まで、全国 14 大学・29 研修病院の医学科 1〜6 年生および初期臨床研修 1・2 年目の医師を対象に、匿名のウェブ調査を実施しました。対象約 9,000 名のうち、同意を得た 1,101 名(医学生 832 名、研修医 269 名)の回答を解析しました。推定回答率は 12.2%でした。

やりがい、先進的な研究・治療、多様なキャリアが内科の魅力

内科に「とても関心がある」「ある程度関心がある」と回答した人は 70.8%でした。内科のイメージについては、「やりがいがある」が 74.6%、「先進的な研究や治療ができる」が 63.9%、「キャリアの柔軟性や多様性がある」が 60.5%で肯定的に評価されました。一方、「ワークライフバランスがよい」は 41.9%、「妊娠・出産・育児と両立できる」は 36.0%であり、働く環境への支援も課題として示されました。

診断の面白さや患者さんとの関わりが内科を考える理由

内科を進路の候補とする人では、病気の原因を考えて診断にたどり着く過程への興味が、医学生(43.8%)・研修医(47.5%)のいずれでも最も多く挙げられました。患者さんの話を聴き、診察することが好きであることや、内科の専門分野への興味も、両者に共通する主な理由でした。これらは、病態を深く理解し、人と向き合いながら専門性を高められる内科の魅力を示しています。

内科を進路の候補とする割合は教育・研修段階で異なる

内科を選択する可能性があると回答した割合は、医学生 86.9%、研修医 60.2%でした。医学生では、3・4 年生の 90.4%に対して 5・6 年生では 82.6%と低く、統計学的に有意な差がありました。研修医では 1 年目 65.1%、2 年目 53.8%でしたが、この差は統計学的に有意ではありませんでした(p=0.06)。

研修医では指導医や研修環境、専門医制度が重要な要素

内科を進路の候補とする人のうち、研修医は医学生よりも、尊敬できる・相談しやすい上級医や指導医の存在（36.4%対 11.8%）、医局の雰囲気（25.9%対 12.4%）、教育・研修制度の充実（18.5%対 8.7%）を理由として多く挙げました。一方、内科を候補としない研修医 107 名では、「専門医制度が魅力的でない」が 40.2%、「仕事と私生活の区切りがつきにくい」が 23.4%、「仕事量に比べて収入が低い」が 18.7%でした。

また、進路を決めるうえで重視する要素を 3 つ選ぶ質問では、「仕事のやりがい」（59.7%）と「専門分野への興味」（42.0%）が最も多く選ばれました。内科への志向の有無にかかわらず、仕事そのものの魅力が進路を考える重要な要素となっていました。

これらの結果は、内科への関心を進路選択につなげるには、学問的な魅力の発信に加え、指導や研修の環境、資格取得の見通し、仕事と生活の両立を支える取り組みが必要であることを示唆しています。

3. 波及効果と今後の展望

今回の結果は、内科の魅力を伝えることと、キャリア形成の障壁になりうる要素を把握し、相談しやすい指導体制や多様な働き方を整えることを、ともに進める重要性を示しています。医学生や医学を志す若者が、内科で活躍する医師の仕事やキャリアを知ることは、自分の関心と将来の姿を考える機会になります。日本内科学会が大学や研修病院と課題を共有し、若い世代の声に応じた支援を検討することで、次世代の医師が安心して成長し、地域の医療を支える環境づくりにつながることが期待されます。

本研究は異なる人々の回答を比較した横断調査であり、個人の志望の変化や、その原因を示すものではありません。また、任意の回答で、回答率は 12.2%、研修医の回答者には大学病院勤務者が多く、全国すべての医学生・研修医を代表する結果とは限りません。今後も若い世代の声を把握し、教育や働く環境への支援を検討・評価していくことが重要です。

4. 望研究プロジェクトについて

本研究は、日本内科学会若手委員会が企画・実施した多施設共同のアンケート調査です。同委員会の委員と全国の協力大学・研修病院が連携して実施しました。京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会の審査（承認番号 R4820）を受け、参加者の同意を得て実施しています。研究費は日本内科学会の支援を受けました。

日本内科学会若手委員会は、ダイバーシティ推進委員会の下に設置され、若い世代の声を生かしたキャリア支援や、専門領域を越えた交流に取り組んでいます。公式ホームページでは、現場の内科医の働き方や多様なキャリア、医学生・若手医師向けの情報などを紹介していま

す。

日本内科学会若手委員会ホームページ：https://wakate.naika.or.jp/

用語解説

横断調査
一定の時期に、異なる人々の状態や考えを調べる研究方法です。
同じ人の時間的な変化や、出来事の因果関係を直接示すものではありません。

初期臨床研修医
医学部卒業後、原則として 2 年間の臨床研修を受ける医師です。

ワークライフバランス
仕事と、家庭生活・育児・趣味など仕事以外の生活との調和を指します。

専門医制度
定められた研修や評価を通じて、各診療分野の専門的な医療に必要な知識・技能を身につけた医師を認定する制度です。

研究者のコメント

大野　聡子
日本内科学会若手委員会　委員長／久留米大学内科学講座　心臓・血管内科部門　講師
「今回の調査は、若い世代の声を学会活動に届けるという日本内科学会若手委員会の理念を初めて形にした取り組みです。私たちは、内科を志す若い医師や医学生にとって、より開かれた学会・内科領域を目指しています。今回寄せられた声を大切にし、内科の魅力を伝えるだけでなく、若い世代が直面する課題にも向き合っていきたいと考えています。一人ひとりが希望を持って進路を選び、自分らしいキャリアを築けるよう、今後も若い世代とともに活動を進めてまいります。」

村上　隆亮
日本内科学会若手委員会　副委員長／京都大学大学院医学研究科　助教（責任著者）
「内科には、幅広く学びながら自分の関心や強みを生かせる、さまざまな道があります。医学生や医学を志す若い方々にも、その可能性を知っていただけたらと思います。今回の調査は、若い世代の期待や悩みを支援につなげるための出発点です。診断学や専門領域の面白さに加え、相談できる指導医や研修の見通し、働き方の選択多様性を具体的に示すことが、若い世代が将来の姿を描く助けになると考えています。一人ひとりの先輩内科医だけでなく、学会・大学・病院も一緒に、本研究で明らかとなった進路選択やキャリア形成の障壁になりうる課題への支援を検討し日本の内科医療の将来を支えることにつながればと思いま

す。」

論文タイトルと著者

タイトル

Perceptions of Internal Medicine and Career Decision-making Factors among Medical Students and Junior Residents in Japan: A Cross-sectional Survey from the Japanese Society of Internal Medicine Young Physicians Committee
（日本の医学生・初期臨床研修医における内科への認識と進路選択に関わる要因：日本内科学会若手委員会による横断調査）

著者

Takaaki Murakami*, Toshihiko Matsumoto, Yuka Sugawara, Yuko Iida, Natsuko Imakita, Konomi Kobayashi, Kyoko Hoshikawa, Hiroki Kurumi, Eikan Mishima, Takanori Ito, Motoi Kuwahara, Satoshi Kutsuna, Keita Tatsushima, Mayo Tanabe, Yuma Fukutomi, Sachiyo Yoshio, Akiko Ishigami, Chihiro Kondoh, Eri Matsuki, Tomoko Kobayashi, Yosuke Masamoto, Masayuki Nishide, Tatsuya Hosoi, Noriko Ihana-Sugiyama, Masanori Murakami, Ho Namkoong, Michiko Nanao-Hamai, Seidai Sato, Tatsunori Taniguchi, Haruka Tsuchiya, Yosuke Tsuji, Satoko Ohno-Urabe

掲載誌

Internal Medicine
*Corresponding author
・早期オンライン公開日：2026 年 11 月 19 日
・本公開日：2027 年 3 月 15 日号または 4 月 1 日号掲載予定
・DOI：10.2169/internalmedicine.8223-26